

## 特別講演

### 『胸部 X 線写真読影のポイント～「パッと見」でわかる異常所見～』

北海道大学病院 放射線診断科 吉川 仁 人

#### 【抄録】

胸部 X 線写真の読影は基本的に医師の仕事である。しかしながら、北海道では画像診断医が不足しており、診療報酬の観点から CT や MRI、核医学検査の読影に追われ胸部 X 線写真には手が回らず、依頼科医師に委ねられているのが現状である。他方、胸部 X 線写真の読影は専門性が高く、医学部での教育において系統的に勉強する機会が少なく、医師免許の習得後ほぼ独学で習得せざるを得ない。そのため、検査を依頼する医師が仮に呼吸器や画像診断を専門としない場合、読影に十分習熟しているとは必ずしも言えない。

このような現況下では、例えば救急の現場で、診療放射線技師が大雑把であっても胸部 X 線写真の読影をすることができれば、現場での診療に大いに役立つと考えられる。特に急を要する現場では、少なくとも一見してわかる大まかな異常をその場で多くのスタッフの目で確認・共有できるのならば、見落としを減らすことにもつながり得る。

今回は、実際の症例を交えながら胸部 X 線写真読影の基本、および見落としの少ない読影方法のポイントを解説する。